

日薬情発第7号
令和8年4月7日

都道府県薬剤師会 担当役員 殿

日本薬剤師会
副会長 原口 亨

処方箋情報送信端末「NB-Station」の導入に係る連携について

平素より本会会務に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、医療 DX を取り巻く昨今の課題に鑑み、本会が株式会社ファルモと連携し、電子お薬手帳システム「e お薬手帳 3.0」を基盤とした公正かつ中立な薬局 DX 基盤サービス「N-Bridge(エヌブリッジ)」及び医療機関設置型の処方箋情報送信端末「NB-Station」の構築・運用については、令和7年10月8日付(日薬情発第111号)にてお伝えしたとおりです。

また、本件につきましては、日本病院薬剤師会に対しても別添のとおり通知し、趣旨へのご理解と会員への周知についてお願いしているところです。

つきましては、貴会におかれましても、患者による薬局の適切な選択に資する環境の整備及び地域医療を支える基盤づくりの観点から、NB-Station の導入を進める場合には、地域の実情に応じて都道府県病院薬剤師会等の関係団体とも適宜連携のうえ、処方箋送信環境の整備が円滑に進むようご配慮くださいますようお願い申し上げます。

あわせて、地域薬剤師会に対しても、本件の趣旨についてご周知くださいますよう、何卒よろしくようお願い申し上げます。

日本病院薬剤師会

会長 武田 泰生 殿

日本薬剤師会

会長 岩月 進

薬局 DX 基盤サービス「N-Bridge」および 医療機関設置型端末「NB-Station」の運用について

平素より、本会会務ならびに地域医療の推進に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の医療 DX の進展に伴い、医療機関における処方箋送付の形態も多様化しておりますが、昨今、一部の営利企業が提供する処方箋送信端末等の導入において、看過し得ない課題が顕在化しております。

具体的には、FAX コーナーを撤去した医療機関や未設置の医療機関に対し、限定的な運用を目的とした民間企業のシステム等が導入される事例が増えておりますが、これらの端末の中には、特定の契約薬局が優先的に画面表示されるなど、患者の意思が正しく反映されない仕組みとなっているものが存在します。こうした仕組みは、患者による「かかりつけ薬局」等の自由な選択を阻害し、特定の薬局への不適切な誘導を助長する懸念がございます。併せて当該システムにおいては、処方箋を応需する薬局側に対して高額な手数料負担を求めるケースが多く見受けられます。このような構造は、薬局経営を圧迫するのみならず、地域医療提供体制の持続可能性を損なうものであり、患者の不利益に直結するものと深く憂慮しております。

かかる状況を踏まえ、本会では患者の利益を守り、公正かつ中立な医療提供体制を維持するため、薬局 DX 基盤サービス「N-Bridge (エヌブリッジ)」を構築いたしました。本サービスの一環として、本年春より従来の FAX コーナーに代わる医療機関設置型の処方箋等情報送信端末「NB-Station (エヌビーステーション)」の運用を開始する運びとなりました。NB-Station は、特定の薬局への誘導を行わず、患者自身が希望する薬局を公正に選択できる環境を担保するとともに、地域医療を支える持続可能なインフラとして設計されております。

貴会におかれましても、本会の趣旨をご理解いただくとともに、各医療機関における処方箋送信環境の整備にあたりましては、患者の不利益とならないようご配慮賜りますれば幸甚に存じます。